

兵庫県立長田商業高等学校 令和5年度 学校関係者評価 報告書

スクール ミッション	神撫商業学燈の理念のもと、自ら考え、自ら学び、商業の専門性を有するとともに、起業家精神をもち、社会の創造と発展に貢献する資質を備え、産業社会で主体的に行動し、地域社会や世界の発展に貢献できる人材を育成する。
スクール ポリシー 育成を 目指す 資・能力に 関する方 針	<p>(1) 「誠意の卓越した人となること」を掲げ、他人を思いやる心を養い、自ら主体的に学び、考え行動する生徒を育成する。</p> <p>(2) 「常識の卓越した人となること」を掲げ、規範意識を育み、他者と協調して社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する。</p> <p>(3) 「技能の卓越した人となること」を掲げ、情報活用能力やビジネスに関する専門性を備えた生徒を育成する。</p>

回答方法 4. 非常によくあてはまる 3. おおむねあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. あてはまらない

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	平均	平均 (R4)	学校の取組状況・改善の方策	評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	学校組織の活性化	1	各部・学年が教育目標及び重点目標の下、PDCAサイクルによる改善をはかりながら協動的・組織的な取組を行っている。	3.11	3.15	・株式会社NAGAZONの取組は特にできている ・組織的な対応はできているが、情報の伝達が遅い場合がある。 ・各部・学年内では協力できているが、部署・学年をまたぐとコミュニケーション不足部分を感じる。	・丁寧な指導がアンケート結果全体にあらわれている。
	保護者や地域とともにある学校づくり	2	ホームページの更新や中学校訪問等により、本校の情報や魅力等を発信し関心と理解が深まるよう努めている。	3.61	3.70	・こまめにできている。情報発信としては、SNSの活用頻度が一番高い。 ・SNSでの発信が本校の広報活動に効果があった。 ・閲覧回数が増える工夫が必要である。	・学校ホームページやSNS等広報は大変充実している。SNSの多用は前向きで長田商業らしさが表に出ています。インスタグラムの利用は素晴らしい。 ・もっともっと発信していくことにより、生徒は自分が取り組んだことが自信になる。
		3	学校行事等を通じて保護者や地域と連携して、生徒・保護者・教員・地域が教育活動を通して互いに信頼できる関係づくりを推進している。	2.94	3.15	学校行事が多く、地域と連携もできており保護者の方も販売実習に来て頂いたりして関係づくりができているが、参加数が少なく工夫が必要である。	・商業高校として、社会・地域との繋がりを更に意識した取組を期待したい。 ・以前に比べて、小中学校も含めて繋がりがなくなり日々の連携がとりにくくなっていて情報が行き渡りにくくなっている。生徒たちが一生涯命取り組んでいることを地域がどう協力していく時期になっている。 ・概ね理解している。AIや生活様式の変化で人と人の繋がりの希薄化が進んでいる中で生徒の生きる力を育むには学校と地域が積極的に連携していく必要がある。
	商業高校としての魅力づくり	4	商業科としての魅力を生かし、生徒の特性に合わせながら多様な商業科目に主体的に取り組ませている。	3.56	3.20	・実用性を感じて楽しみながら学習できている生徒が多い。 ・地域創造の取組は昨年度より発展している。	・生徒に前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。 ・各種コンテストにも多数応募され、主体的で実践的な学びが提供されている。
	働きやすい職場環境づくり	5	教職員の勤務時間の適正化に向けた取組を行い、教職員の健康に配慮した校内体制を構築している。	3.44	3.15	・業務時間外の業務は少なく定時退勤できているが、定時退勤日の放課後の会議は避けるべきである。	・先生方が快適に健康に活動できるように努めてほしい。
教職員資質向上	校内研修による教職員の資質向上	6	生徒指導に活かすため、学校の課題に沿った校内研修を充実させている。	3.56	3.10	・年3回開催され、本校の生徒状況に沿った内容だった。 ・職員研修が活発であるという意見がある一方、昨年度までは学科改編もあり研修も多かったが、今年は少し減少したという意見も有った。生徒の現状(進路・学力等)の共通理解や卒業後の進路についての研修がほしい。	
	授業実践力の向上	7	公開授業週間を年2回実施し、互見授業を積極的に実施するなど、教員の授業力の向上を図っている。	3.17	3.20	・授業見学後の前向きなフィードバックがあったり、模擬授業をするのも授業力の向上に役立つ。 ・見学回数が依然として少ない。非常勤講師の先生方の公開授業も実施し、見学したい。	
		8	ICTを活用した授業、教科横断的な指導、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が図られている。	3.33	3.40	・ICTの活用、アクティブラーニングが浸透しており、各教科でかなり工夫されている。 ・教科横断的な指導は「地域創造」できている。 ・幅広い内容で、ICTを活用した授業に向けた研修があればありがたい。	・ICTの活用など常に工夫されており評価できる。・授業者にICT活用が浸透している。・生徒のICTの使用頻度は、調べ学習や意見交換のための運用等役立っている様子である。
生徒指導	生徒の内面的理解	9	個人面談の実施や声かけにより、保護者と綿密な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行っている。	3.50	3.55	・こまめに面談・声かけや電話連絡を行い、必要があれば家庭訪問ができている。 ・生徒個々の特性・環境を配慮し、生徒・保護者に向けて細やかな言葉遣い・態度を工夫していく必要がある。 ・生徒の在籍異動が多かった。	・生徒に寄り添った指導・支援ができている。
		10	生徒情報交換会・ケース会議等で生徒に係る情報を職員が共有し、生徒の内面的理解や生徒の状況把握に努めている。	3.67	3.50	・支援委員会・生徒情報交換会が上手く機能している。 ・こまめな情報共有ができている。	・生徒の内面的理解を深める上で、地域と学校が共通理解をし、積極的に地域に出て行くプラン(発信含む)のご提案がありました。
		11	発達障害やLGBTQ、日本語教育の必要な生徒等多様な個性・ニーズに合わせた教育活動を推進している。また、必要に応じて合理的配慮を行っている。	3.28	3.25	・研修や複数対応により実現できている。・教員に個別対応する余裕がないので、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。	LGBTQの対象生徒がいないと記されているが、いるという前提に立った指導に当たる必要がある。
生徒指導	基本的な生活習慣等規範意識の醸成	12	あいさつ・言葉遣い・時間を守るなどの基本的な生活習慣を身につけさせている。	2.61	2.50	・挨拶の習慣、教員への言葉遣い、歩きスマホ等の基本的なマナーは改善の余地がある。基本的な生活習慣が定着している生徒は入学時からできているが、なかなか生徒に意識付けができていない。	・挨拶ができる生徒が増えた。・個々の表情など表現力が豊かになっている。 ・発表の場において、紙を読みながらでも聞きやすい話し方ができるようになった。聞き手の方を見ながら話せる態度は素晴らしい。

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	平均	平均(R4)	学校の取組状況・改善の方策	評価項目ごとの学校関係者評価
生徒指導	教育相談の充実	13	多様化する生徒に対応するため、キャンパスカウンセラーによる教育相談を充実させている。	3.39	3.35	・教育相談の機会は充実しているが、利用しきれていない。	
	健全な心と豊かな心身の育成	14	生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、生徒と教員の信頼関係にもとづいた適切な指導を行っている。	3.28	3.15	・「地域創造」を通して、できることを増やし多くの教員や地域の方と関わることで自己肯定感を高めている。	・自己肯定感を高め、自分の思いや考えを自信を持って表現できる生徒、相手の意識を持ち分り易く表現できる生徒の育成が求められている。そのような場を意識的に設定していただきたい。
		15	生徒指導講演会や保健講話等を実施して、健全な生活を送るために必要な資質を養っている。	3.33	3.45	・色々な分野の内容を取り入れて、生徒が選択できるシステムにしたため、前向きに取り組んでいた。 ・講演会よりも少人数制のワークショップの方が本校生徒には適している。	
進路指導	生徒・保護者に対する進路情報提供の充実	16	進路ガイダンスやインターンシップ等を活用して、系統的・継続的なキャリア教育の充実を図っている。	2.78	3.05	・進路行事では、企業・大学・専門学校の方々の生の声が聞け、生徒にとって進路を考える良い機会になった。今年度より、分野別進路ガイダンスに保護者(希望者)にも出席して頂き、進路に向けての情報を共有できた。 ・一度のガイダンスだけでなく定期的に進路の話をする機会が必要であり、進路情報について1・2年生から系統立てたアプローチが必要である。 ・卒業時のことや20歳・30歳とライフプランを考えて、オープンキャンパスやインターンシップ、科目選択等を指導していく必要がある。	
		17	「進路のしおり」を作成し、進路指導の充実を図っている。	2.72	3.05	・「進路のしおり」を活用する機会がほとんどないため、読んでいない生徒が多い。進路を考える機会を設ける必要がある。 ・1年生へは入学時のオリエンテーションで、3・4年生には、進路ガイダンスや夏期補習等で活用できているが、それ以外の生徒への定着が今後の課題である。 ・学年ごとに必要な情報を取捨選択しタイムリーに提供し、進路指導の観点から話が必要である。	
	進路に対する個別指導の充実と進路実現	18	生徒一人一人の進路希望や特徴を把握し、長所を生かした進路実現に向けての指導を行っている。	3.39	3.20	・個別に対応ができていない。 ・担任の先生方と密に情報共有を進めながら、生徒の進路に向き合うことができました。学年や校運の先生方の協力をいただいて進路対策面接練習を手厚く実施できた。	・生徒個々の進路目標の実現に向けて引き続き指導の充実を図っていただきたい。 ・株式会社NAGAZON経営目標は、進路実現に結びつくことを更に明確にできたらよい。
生徒の学び	確かな学力の育成	19	基礎的・基本的知識・技能の定着を図る指導がなされ、生徒の学習意欲が高まっている。	3.11	3.00	・数学・英語において学び直しやPCの活用スキルのカリキュラムをO校時に組んでいるが、前者は時間的にも人間的にも不足している。 ・TTよりも習熟度授業の実施を検討した方がいいのではないという意見も有る。 ・本校生徒は精神的な不安定さが本人の学習意欲に大きく影響し、その態度が周りの生徒にも負の連鎖で影響している。その状況を踏まえた授業の進め方を見直す必要がある。	・その通りである。O校時を上手に活用した取組がされている。
	カリキュラムマネジメント	20	社会や地域との接点を持ちつつ、生徒が未来を切り拓く力を身に付けるように教育課程の改善を図っている。	3.22	3.25	・生徒に必要な力を考えながら、教育課程の改善を図っている。	
	生徒の学習状況に応じた学びの体制の確立	21	生徒の状況を適切に把握した上で、習熟度別授業や少人数授業を適切に実施し、個に応じた学習指導を行っている。	3.22	3.30	・入学生徒が多い上に日本語指導が必要な生徒が在籍している場合に、教員が足りず習熟度別や少人数にできない。 ・上位層を伸ばす取組が必要である。 ・TTの授業の教育効果を明示する工夫が必要である。	・生徒の出席状況や習熟度に差があるので、今後もより一層生徒に寄り添った指導をお願いしたい。 ・多様性に対応できる学びを確立していただきたい。
	外部人材の活用	22	外部からの講師を積極的かつ有効に活用し、生徒に幅広い学びの場を提供している。	3.44	3.55	・特別非常勤講師や兵庫の達人招聘事業を活用している。	
特別活動	学校行事の充実	23	生徒会を中心とした校内活動を充実させることで、自尊感情や社会とのつながり意識を高揚させている。	3.39	3.20	・文化祭では、青雲高校と連携し充実した内容となった。 ・活動時間を確保していく工夫が必要である。 ・新役員になって積極的に動いている ・生徒会の活動規模がより大きく、自主的で前向きなモノになればよい。	・生徒が外へ出て行く経験をして、他の生徒へフィードバックしていく必要がある。生徒が他の生徒を引っばしていることが伝わるようににしてください
	人権教育・多文化共生教育の推進	24	人権映画鑑賞会等を実施し、生徒の人権感覚の涵養に努めている。	3.17	3.25		
		25	人権教育LHRを計画的に実施し、自他を肯定する態度と共生社会実現への実践力を高めている。	3.06	3.10	・人権HRだけでなく人権教育に関する資料を係から教職員・生徒に情報提供していく必要がある。 ・生まれ育った環境にも影響され、自己肯定感の低い生徒の意識を変えることは非常に難しく、その方法を導き出すことが本校の1番の課題である。ゲーム感覚で楽しみながら心理的にアプローチしていく方法を模索する必要があるのでは	
学校の特色化・個性化	26	NAGAZON経営の実践的な学びを通して、主体的に学び考え行動を促す指導を行うとともに、地域に対する愛着心・貢献意識を高めている。	3.44	3.15	・非常に活発に動いている。 ・生徒の主体性と責任感が養われている。	・株式会社NAGAZONが長田商業の特色となった。引き続きアピールしていただき地域に貢献できる人材育成をお願いしたい。 ・学校行事の前にもっと事前に販売すべきである。 ・NAGAZONの活動を通して、社会人と接する経験は校内では学べない貴重な体験である。 ・eスポーツ部は大会に積極的に参加してもっと学校の目玉にしてこまめにPRしてください。	
危機管理体制	教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上	27	学校防災マニュアルを実情に応じて適宜見直し、家庭・地域等と連携した危機管理体制を構築している。	3.17	3.15	・毎年、防災マニュアルが更新されているが、年度当初に配付のみに終わっているという意見も有る。	・防災訓練の工夫をお願いします(緊急時の連携や3校連携も視野に入れる)。
		28	防災訓練等の実施により生徒の防災意識を高め、生徒自身が災害時に適切に判断し、主体的に行動する力を育成している。	3.00	3.05	・防災訓練に工夫があり、実際に災害が発生したことを想定できる。 ・火事・地震・台風等の自然災害、通学途中の人的災害、それぞれの事例の紹介や防災に向けての具体的な対策を伝える機会を作っているかどうか。	
	安全な学校づくり	29	救急救命講習の実施等、いかなる時にもまず人命を守るという、教職員の意識と技術を高めている。	3.44	3.4	・AED講習を毎年実施している。	
	生徒の安心・安全	30	いじめアンケートを実施し、生徒のいじめ防止や自殺予防に向けた職員研修に取り組み、速やかな情報の共有と対応に努めている。	3.67	3.65	・人間関係で問題を抱えている生徒は躊躇なく事実を記入している。 ・研修やアンケートが充実している。ただし、生徒事案対応は難しいので、随時相談できる人がほしい。	・生徒の安心安全がもつとの大切であり、継続して指導に当たっていただきたい。いじめ防止基本方針もR5.4に改定されており見直しが行われており適切である。
情報モラルの育成	31	SNSに係るトラブルについて授業や講演会等あらゆる機会を通して、情報モラルの向上を図っている。	3.39	3.55	・授業や学校行事等において、考えさせている。	・SNSに係るトラブルがいじめ等に発展しないようスマートフォンの使い方やSNSの利用について日常的に注意喚起してほしい。 ・最新の知識の伝達とモラル向上に取り組んでいる。	
その他	32					・校内及び学校周辺の照明設備の整備の検討。訪問時に暗いイメージをもつことや、案内表示も夜間はほとんど役に立たない。学校は本来、生徒が明るい気分通学できる場所であってほしい。	